

## 平成26年度 社会教育委員会議第3回定例会 会議録

- 1 会議名 平成26年度木更津市社会教育委員会議第3回定例会
- 2 開催日時 平成27年1月16日（金）午後3時～5時
- 3 開催場所 木更津市役所6階会議室
- 4 出席者名 委員：蘇我芳章（議長）、石井徳亮（副議長）、野中洋子（副議長）、伊藤孝、平田和世、榛澤敦子、大岩宏之、宮崎恵子、武田正次、青木健、吉田裕子、李程英、地曳昭裕、内田慎一郎、石村比呂美（15名）  
事務局：初谷幹夫教育長、鹿間和久教育部長、齊藤良二教育部次長、石井一彦生涯学習課長、佐々木英之主幹、篠田貞明副主幹、堀田かおり主事（7名）

### 5 協議事項

- (1) 「地域で支える家庭教育支援事業」について
- (2) 今後の公民館整備について
- (3) 今後の少年自然の家キャンプ場の管理運営について
- (4) 各審議会・協議会報告について
- (5) その他
  - ①平成27年成人式事業報告について
  - ②その他

- 6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人なし

### 7 資料

- ①平成26年度「地域で支える家庭教育支援事業～“気になる”子どもと親を地域で支える家庭教育支援プログラム～」中間報告
- ②今後の公民館整備の方向性について（抜粋）
- ③今後の少年自然の家キャンプ場の運営について
- ④平成27年木更津市成人式事業報告

### 8 会議の内容

事務局 それでは、これより平成26年度木更津市社会教育委員会議第3回定例会を開催いたします。委員18名中15名の出席で、欠席は3名です。社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、本日の会議は成立しております。

なお、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人はございません。以上報告いたします。

それでは開催に先立ちまして、蘇我議長からご挨拶を申し上げます。

蘇我議長 新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。第3回の社

会教育委員会議のご案内いたしましたところ、大変ご多用の中、多くの委員の皆様にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。本日も色々な議題が用意されておりますので、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。

さて、昨年12月1日に君津地方社会教育委員会議連絡協議会の研修会を君津市で行いました。千葉大学の長澤先生を講師にお招きして、「社会教育委員とはどうあるべきなのか」という演題でお話を頂戴いたしました。長澤先生は千葉市の社会教育委員も務められておりますので、千葉市で出された意見書等もお持ちになって、社会教育施設の民間委託問題などについてお話をしていただき、大変勉強になりました。

しかし翻って考えてみますと、本市の社会教育委員会議では、以前から様々な学習をしながら活動を続けてきていますが、先輩方から、それが当然やるべきことだというのを教えられました。改めて皆さんと委員の顔ぶれを見ていただきたいのですが、年齢も様々になっています。また、他の審議会等に先駆け、女性の比率が高くなっていくなど、各界各層の方々にお集まりをいただいています。それは、社会教育の守備範囲が非常に広いので、色々な方のご意見を聞かないと社会教育委員としての務めが果たせないからだと思っております。先ほどの研修会の際に「こういう機会は初めてです」と仰った方もいたのですが、私たちは色々な事をやらせていただいて、本当に幸せだと感じました。そして、教育委員会から諮問をいただいて、皆さんと真摯に協議して答申を行うという社会教育委員の本来の姿が、この木更津市にはあり、本当に幸せだと感じております。

このメンバーでの会議も後2回ですが、皆さんのご意見を聞きながら、一步でも二歩でも木更津市の社会教育のためになればと感じています。社会教育といいましても、今は学校教育や家庭教育ともリンクしております。社会教育が学校教育のために果たさないといけない部分もあります。学校教育がより良くなるために社会教育施設を使っただけということも必要だと思いますので、そういう面も含めまして皆さんのご意見を頂戴したいと思っております。よろしく願いいたします。

事務局            ありがとうございます。続きまして初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長    皆さん、こんにちは。そして、明けましておめでとうございます。平成27年は、1月1日に小雪が舞う、矢那の周辺での元旦マラソンからスタートしました。元旦マラソンは、スポーツ振興課で主管しておりますが、そこに参加する人たちは小中学生から成人、高齢者まで様々です。大きく見れば社会体育のくくりになります。

先週は成人式がございました。後ほど担当から報告があると思いますが、ここ数年続いてきた市民会館と富来田公民館の2会場による成人式のスタイルが、差し当たって今年が区切りになるということで、今後の成人式のあり方を検討しなければならなくなっています。これについてもご指導を賜りたいと思います。また昨日は袖ヶ浦市で君津地方視聴覚教育振興大会があり、そこでは、視聴覚教育と社会教育・生涯学習が講演等の中心でした。

ところで、現在、社会教育委員会議で答申いただいたことを、予算の範囲内でどれだけ具現できるか、新年度計画、中長期の計画の中にどのように反映させていくかを話し合っている最中でございます。3月議会で議決をいただければ進まないこともあると思いますが、その辺も今日の協議事項の中でご報告をしながら、委員の方々からご意見を伺いたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 ありがとうございます。それでは会議に入ってまいりたいと存じます。今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会議運営規則第2条第4項により議長をお願いいたします。それでは蘇我議長より申し上げます。

蘇我議長 それでは、ただ今より、平成26年度 木更津市社会教育委員会議 第3回定例会を開催いたします。

では、まず「(1)『地域で支える家庭教育支援事業』について」、協議を行いたいと思います。事務局から説明をお願いします。

#### 事務局説明

蘇我議長 事務局より「(1)『地域で支える家庭教育支援事業』について」、ご説明がありました。ご意見、ご質問等ある方はお願いします。

では、私から質問させていただきます。なぜ、予算が切られてしまったのですか。

事務局 本来この事業は、国が直接事業をやるというよりも自治体がやるべき事業であり、あくまでもモデル事業として3年間の枠の中でやるということでした。それが、文科省と財務省とで予算のやりとりの中で、2年目で事業が打ち切りになってしまったためです。

蘇我議長 ありがとうございます。他にございますか。

内田委員 規模を縮小して実施するという話だったのですが、どのような形になるのでしょうか。

事務局 この事業は4つに講座等に分かれているのですが、まず、「子どもを怒鳴らない・叩かない子育ての練習(CSP講座)」については、全2コースの内、今年度は1コース分しか予算がつかなかったため、1コースを地域子育てセンター「ゆりかもめ」のご協力で実施することができました。この講座については、今後も、他の子育て支援機関等と様々な面で協力しながら、できる範囲で継続できたらと考えています。次に、「“気になる”(困難を抱えた)子どもを持つ親のための講座(“気になる”講座)」については、本年度から参加者有志の企画実行委員と一緒に講座づくりを行いました。保護者の組織化が一つの目標でもありますので、講座の回数を減らしたり、話し合いを中心に講座を組み立てていくことも可能かと思っております。次に、「桜井公民館・子育て広場」や「子育て応援隊養成講座」については、既に公民館で行っ

ている事業等と連携して実施することを検討するなど、何らかの形で持続可能なシステムづくりができればと考えています。

地曳委員 「“気になる”講座」の参加人数が多いのですが、対象者は、第二中学校区の人に限られているのですか。

事務局 事業としては該当地域を対象にしていますが、この講座については、全市的な課題だという認識のもと、幅広く募集を行いました。昨年度は準備期間が短かったのですが、今年度については、特別支援学級の保護者の方々に声を掛けるなどの方法を行ったほか、口コミで君津、袖ヶ浦からの参加もありました。

地曳委員 “気になる”子の潜在的な数などは、分かるのですか。

事務局 文科省の調査によると、発達障がいのお子さんが6%ぐらいいるという推計値があります。ただ、グレーゾーンまで含めると、かなりの人たちがいるのではないかと推測されます。参加者も、とにかく不安なので勉強したいというお母さん方もいますし、既にお医者さんの診断を受けて治療されている方もいるなど、かなり幅広くなっています。

平田委員 保育士登録の資格を取得するためには、施設の実習が課せられており、知的障がいなどの子どもたちの所に行くことになります。学生たちは保育者になることについて、「健常者」の保育をするというイメージしかありませんので、実習に行くと現実を目の当たりにしてかなりショックを受けます。しかし、ショックを受けると同時に、自分が役に立つ場所があるのではないかと考え、保育者を目指して入学して来た学生たちの3分の1近くは、卒業してから施設等の支援者になりたいという希望を持ちます。

グレーゾーンというお話がありましたが、自分の子どもがそういった可能性を持って生まれてきた、と保護者の方は思いません。日常の育ちの中で、何か問題があって、周りと違う、同じことができない、というところから「もしかしたら」と気づかれるケースがほとんどです。そういった状況で、情報が欲しい、あるいは「うちの子は大丈夫だ」といってくれる存在が欲しいのではないかと、という気がします。君津に愛児園という公立で発達障がいなどをお持ちのお子さんのための施設があります。普通の幼稚園に通われているお子さんも、週に一度だけ愛児園に通うケースも見られます。障がいを持って産まれた子どもに対して、周りの地域がどうサポートしていくかがとても大事だと思いますので、こういう事業が継続されていくと、お母さんたちにとっても子どもたちにとってもとても良いと思います。

青木委員 保護者が自分の子どもに対してあまり積極的ではない場合は、それすらも気がつかないケースがあるとすると、グレーゾーンはもっと多い可能性があるということですか。

平田委員 はい。何しろ親御さんが、まず認めるということにもものすごく抵抗があると思います。現場の教員も悩みながらやっています。当然、集団の中で、保育士も子どもが「もしかしたら」ということに気がつくのですが、保護者の方に話すのがものすごく大変

です。

伊藤委員　まさにその通りです。例えば幼稚園、保育園で家庭に呼びかけを行うのですが、親としては絶対認めたくない。小学校に上がる段階で普通の学級に入り、一年間くらい様子を見るのですが、「特別な支援が必要なお子さんだと思うので」と伝えても、「まだ大丈夫」と言われることがあります。幼稚園、保育園を含めた早い段階で、親御さんが悩みを打ち明けたり相談したりしながら、自分の子どもをきちんと見つめることができるシステムづくりが大切です。その意味でも、今の事業が継続されるのが望ましいと思います。

平田委員　早い時期でだと、先の伸びしろが違ってきますので。

蘇我議長　非常に大事な事業だということですね。

吉田委員　障がいのある子どもをお持ちの親御さんは大変だと思いますが、全ての保護者が、正しい知識を持って子どもを見つめていく必要もあるのではないかと思います。縮小というのはとても残念なことです。各公民館で家庭教育学級に組み込んだり、講座を開催したりして、全ての保護者の皆さんに分かってもらえるような仕組みも必要ではないかと思います。そうすれば、もっと充実した家庭教育ができるのではないかと思います。

蘇我議長　ありがとうございます。皆さんのご意見を聞いていると、これは非常に大事な事業だということがよく分かります。また、発達障がいをお持ちのお子さんの親御さんだけでなく、社会全体が知識などを持たなくてはいけない。そのためにも、こうした形で学習をする場、交流する場が必要だと感じました。

「(1)『地域で支える家庭教育支援事業』について」の協議は、以上をもって終了いたします。

続きまして「(2) 今後の公民館整備について」の協議に入りたいと思います。事務局からご説明をお願いします。

#### 事務局説明

蘇我議長　事務局より、「今後の公民館整備について」のご説明がありました。ご意見、ご質問等ある方はお願いします。

伊藤委員　一昨年、清見台小学校に勤務していましたが、清見台公民館には体育館もあり、様々な活動の中で学校や地域が清見台公民館を中心にして関わったな、という感覚がありました。しかし、昨年からは清見台小学校に移り、ある程度関係性はあるけれど、地域の核となるような深い関わりのある公民館がないように感じています。清見地区の敬老会は、市民会館の中ホールを借りてやっています。文京公民館で文化祭を行う際にも、芸能発表などについては、木二小の体育館を借りてやっています。

一昨年の答申を出した時も、清見・真舟地区のような人口急増地域には総合複合

型の施設が必要だ、との意見がありました。短期計画の④で「中長期整備計画」の策定がありますが、できるだけ早急に請西・真舟地区への公民館の建設を検討していただきたいと思います。

事務局 人口急増地区への公民館整備につきましては、市議会の中でも質問等ありまして、「人口急増地区においては公民館の建設が必要だと教育委員会は認識しております」と答弁しておりますので、そのことも含めて4年間の中で協議をしながら、できるだけ早い時期に建設したいと考えております。

内田委員 2つあります。1つ目は、今、事務局からご説明があった内容ですが、木更津市第1次基本計画は木更津市全体の考えで、木更津市教育振興基本計画は教育委員会を含めた考え、という理解でよろしいでしょうか。その中で、市の基本計画の方は載らなかった文言がある、と発言がありましたが、文言が載っていないと言葉だけで終わってしまうのでしょうか。

2つ目は、金田公民館《(仮称) 金田地域交流センター》という名称ですが、公民館イコール(仮称) 金田地域交流センターなのか、(仮称) 金田地域交流センターの中に公民館があるのか、教えていただきたいと思います。

事務局 まず、木更津市第1次基本計画につきましては、木更津市全体の基本計画ということでございます。木更津市教育振興基本計画につきましては、教育委員会が4年間で行き届くべき計画です。基本的には、木更津市全体の第1次基本計画と教育委員会の振興基本計画の整合性を図りながら進めて行く形になっております。(仮称) 金田地域交流センターにつきましては、第1次基本計画の中に載っておりませんが、この4年間で予算をつけ、実施していくことを確認しております。また、同様に、耐震診断についても実施することになっております。ただ、中央公民館の耐震補強工事及びエレベーター設置については、基本計画との整合性、財政フレーム、優先順位等から期間内の実施が見送られています。

なお、(仮称) 金田地域交流センターにつきましては、国の社会資本整備総合交付金を活用し、地域交流センターとして整備していく事業になりますが、同時に、公民館としても位置づけをしていく予定です。そして、公民館の機能、防災拠点として機能、子育て、高齢者のサロンのようなものを含めた交流機能、地域の行政センターの役割等を備えた地域交流センターとして整備していく方向で考えております。したがって、(仮称) 金田地域交流センターの中に行政センターがあり公民館があり、色々な機能がある施設になっていくと思います。

内田委員 わかりました。教育委員会が策定した教育振興基本計画が、市全体の計画の中にも位置づけられることを期待しています。また、(仮称) 金田地域交流センターについても、イメージ的には分かりました。

事務局 教育委員会としては、今後の新しい街づくり対応した活動を推進していくために、今ある金田公民館を富来田公民館程度の規模の公民館に移設・新築したいという考え

方で進めてきました。

地曳委員 要望です。整備と言うと施設だけをイメージしてしまいましたが、是非、社会教育の専門職を確保していただきたいと思います。平成25年度は市民13万人の中に18名の有資格者がいますが、社会教育・生涯学習は家庭教育の面や街づくりなど、色々な面で求められる資質が高いものがあると思いますので、是非お願いします。

事務局 2つの答申をいただいた中に、双方に職員の話がありました。公民館が活動するためにも、キャンプ場を推進していくためにも、やはり人が要であるということを重々承知しております。教育振興基本計画の中に、図書館、博物館を含めて専門的な職員・有資格者の確保が課題になっていることが明記されております。教育委員会としては、少しでも専門職を配置されるように努力していきたいと思っております。

蘇我議長 ありがとうございます。整備その他、多々難しい点もあろうかと思いますが、良い方向に一步でも近づいていくように皆さんと協力しながら、やっていきたいと思えます。それでは「(2) 今後の公民館整備について」の協議は終了いたします。

続きまして「(3) 今後の少年自然の家キャンプ場の管理運営について」、事務局からご説明をお願いします。

#### 事務局説明

蘇我議長 事務局より「今後の少年自然の家キャンプ場の管理運営について」、ご説明がありました。ご意見、ご質問等ある方はお願いします。

青木委員 老朽化した施設の整備などは、予算を取ってから、とお聞きしましたが、それはこれからの話なのでしょうか。

事務局 予算は単年度で計上となりますので、平成27年分につきましては、老朽化している水道ポンプ改修を要求しております。まだ確定ではありませんが、予算がつけましたら改修をする予定です。平成28年度以降につきましては、毎年改修の計画を立てて各年度に予算要求を行っていくという考えです。

青木委員 整備を徐々にやらなくてはいけないのですが、予算はどのくらいかかりますか。

事務局 ポンプだけでも何百万とかかりますし、今あるテントベースもかなり傷んでいるため、基礎から全部改修となるとやはり百万単位になります。皆さんに安全に利用していただく改修というものを最低限やっていくうえで、プラスの部分で今後どうするかということを考えております。具体的な金額はすぐには出せませんが、大分老朽化しておりますので維持管理だけでも予算はかなり嵩むと思います。

内田委員 使用期間が長くなったということですが、当然指定管理者に対しての負担が増えると思います。使用期間を長くしたことによって、指定管理者に対しての費用は上昇しているのか、それとも今まで通りなのか教えていただきたいです。

事務局 指定管理料は大部分が人件費となっておりますので、開設期間が延びたことにより、

費用は増えることとなります。現在の指定管理料に比べ、大体1.5倍になっておりますが、その予算につきましては確保できております。

内田委員　もう1点ですが、使用期間が長くなることによって、例えば使用料が1.5倍になったりするのですか。多少予算をかけた中で、市民に負担がかかることもあるのでしょうか。

事務局　キャンプ場の収益につきましては、大部分がキャンプ場の使用料となっております。しかし、社会教育関係団体、青少年団体などのほとんどの利用団体は、無料になっておりますので、使用料収入は、掛かる経費に対しての割合からすれば僅かとなっております。使用期間が延びますので多少の増額は見込んでおりますが、あまり期待はできません。利用者負担については、また今後検討していかなくてはいけないと考えおります。

蘇我議長　答申では、キャンプ場の広報を積極的に、という話のほかに、みんなに親しみを持てるような愛称をつけましょうという話も出ていたような気もするのですが、それはどうなっていますか？

事務局　キャンプ場の方向性や愛称、名前を変えるのか等についても、これからの検討となります。

蘇我議長　ありがとうございました。「(3) 今後の少年自然の家キャンプ場の管理運営について」の協議は終了いたします。

続きまして、次第では「(4) 各審議会・協議会報告について」となっておりますが、先週、平成27年成人式が執り行われたばかりですので、「(5) その他」の協議事項①の「平成27年成人式事業報告について」事業報告をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

#### 異議なしの声

蘇我議長　異議がないようですので、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局説明

蘇我議長　蛇足ではありますが、社会教育委員を代表して私も成人式に参加してまいりましたことをご報告させていただきます。さて、事務局より「平成27年成人式事業報告について」ご説明がありました。ご意見、ご質問等ある方はお願いします。

石井委員　来年は、かずさアカデミアホールでの開催ということですが、そうなると富来田地区に近くなると思います。富来田地区も合同で行うこともを含めて検討しているのでしょうか。

事務局　富来田公民館で今まで成人式を独自にやってきた伝統をどうするかと、いうことが



課題の一つです。来年の対象者も約1,200人です。かずさアカデミアホールの定員は700人ですので、仮に富来田地区を別にしたとしても2回行わなくてはならず、富来田地区を別にすると3回行わないといけなくなりますので、検討しなくてはいけないと考えております。

今年の富来田地区の成人の皆さんに、成人式を「独自に開催したい」のか、「一緒に開催したい」のか、アンケートを行ったのですが、「独自に開催したい」と答えた人が57%という結果でした。「一緒に開催したい」という方々は13%、「わからない」が30%でした。今後、富来田地区の住民の方々にも意見をお聞きし、検討していきたいと思っております。

市民会館の方でも、公共交通機関がバスしかないという懸念もあったため、「今回、かずさアカデミアホール開催だったらあなたは成人式に参加しましたか」というアンケートを行いました。これについては、80%の人が「かずさアカデミアホールでも行きます」と回答していただいております。一方で「参加しない」という回答が12%あったのですが、「どこかわからない」という方もいたので、宣伝、周知をすれば大丈夫かと思っております。懸念でありました交通手段については、今回は「自家用車、同乗、送迎してもらった」というのが80%、公共交通機関を利用したのは約2%という結果でした。こちらにつきましても、たくさんの声を聞きながら、かずさアカデミアホールでやる方向で考えております。

吉田委員 対象人数とは住民台帳に載っている数なので、地元ではない方も含まれるということですね。実行委員方式にして、第2部は思い出のスライドショー、各中学校の同窓会案内ということですが、私が思っている成人式のイメージから比べると斬新だと感じます。今のPR方法は広報だけで、地元出身でない人たちが成人式だから行こうかという時に、この内容だけだと、「居場所がない」と考えたりはしないでしょうか。成人式の意味なども、改めて振り返ってもらいたいというのが保護者の思いとしてはあります。2回に分けるということについてですが、中学校や高校で変えたりするのも悩ましいところだと思うので、分け方もアンバランスにならないように考えてほしいです。

事務局 「誓いの言葉」というのがありますが、今回は「自分たちはこれまで色々支えてもらったが、今度は木更津をつくる支えになりたい。そして千葉県を支えていきたい。そして日本を変えていきたい」という主旨でした。成人の皆さんは、成人式の意味をきちんと理解して参加していると思っております。

李委員 以前は成人式というと若者が騒ぐという話をよく聞きましたが、今は違うのですか。

蘇我議長 今回の成人式でも声を上げた人はいましたが、周りの目が冷やかかで、声をあげた方が笑われてしまうという感じでしたね。以前は一緒になって騒ぐような人もいたのですが。

李委員 良い方向に向かっているんですね。

蘇我議長     ありがとうございました。それでは、続きまして「(4) 各審議会・協議会の報告」に入りたいと思います。委員の皆さんから、報告事項があればよろしくお願いします。

李委員       10月20日に青少年問題協議会がありました。木更津市は12年前、青少年の犯罪は千葉県で一番多かったそうですが、去年はとても少なかったそうです。先ほどの成人式の話を知ると、木更津が良い雰囲気になっているということが伺えます。私が初めて木更津に来た時には、電柱の上や柱の所などに色々なチラシを貼ってあったり、落書きがしてあったりもしましたが、今は全然なくなり、明るく良い街になりましたし、青少年の犯罪も少なくなりました。しかし青少年問題協議会の中では、今の問題は携帯電話で、LINEの使い方にご注意してください、との話がありました。

蘇我議長     ありがとうございました。以上を持ちまして、「平成26年度社会教育委員会第3回定例会」を閉じさせていただきます。皆様の協力で本日の定例会を無事終了することができました。ありがとうございました。

事務局       長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。また今後とも、本市の社会教育活動推進のため、委員の皆様にはなお一層のご支援・ご協力をお願いいたします。